



鑄造鉄斧の復元模型

尾長谷迫遺跡から出土した鑄造鉄斧

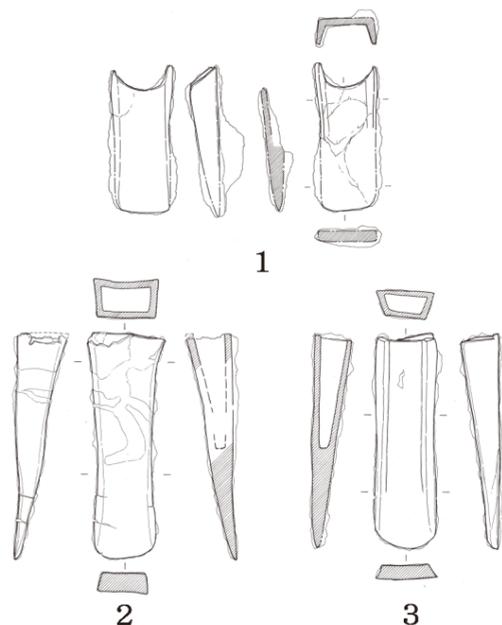
広域ネットワークに連なる交易拠点

尾長谷迫遺跡の出土品の中で特徴的なものとして「ちゅうぞうてつぱ鑄造鉄斧」があります。これは、朝鮮半島で作られた鉄の斧で、溶かした金属を鑄型に流し込んで作られています。鑄造鉄斧は古墳に葬られる有力者が入手するような稀少品きしょうひんです。鹿児島県内では大崎町おほさきまち・二子塚遺跡、指宿市・成川遺跡のみで出土していますが、いずれも埋葬遺跡です。

このことから、尾長谷迫遺跡は一般的な集落ではなく、広域のネットワークに連なる交易拠点であったことが証明されました。

今後も続く発掘調査

尾長谷迫遺跡の発掘調査は4年目にしてようやく目標の半分の面積を調査することができました。調査は令和9年度まで続きます。発掘調査の情報は随時、調査速報展やSNSで紹介しますので、ぜひご覧ください。



鹿児島県内出土の鑄造鉄斧

1:成川遺跡 2・3:二子塚遺跡

橋本達也・藤井大祐（編）2007『古墳以外の墓制による古墳時代墓制の研究』鹿児島大学総合研究博物館
橋本達也・藤井大祐・甲斐康大（編）2008『大隈串良岡崎古墳群の研究』鹿児島大学総合研究博物館



Instagram



Facebook



おばせざこ 尾長谷迫遺跡 見学会

令和6年
3月16日

尾長谷迫遺跡について

尾長谷迫遺跡は、指宿市北部にある古墳時代の遺跡です。昭和60年に初めて本格的な発掘調査が行われ、この場所に古墳時代のムラがあっただけでなく、鉄の道具を作る「鍛冶かじろ」を行っていたことが知られています。この調査で見つかった鍛冶炉を伴う建物跡は、COCCOはしむれ展示室で復元しています。

令和の発掘調査始動！

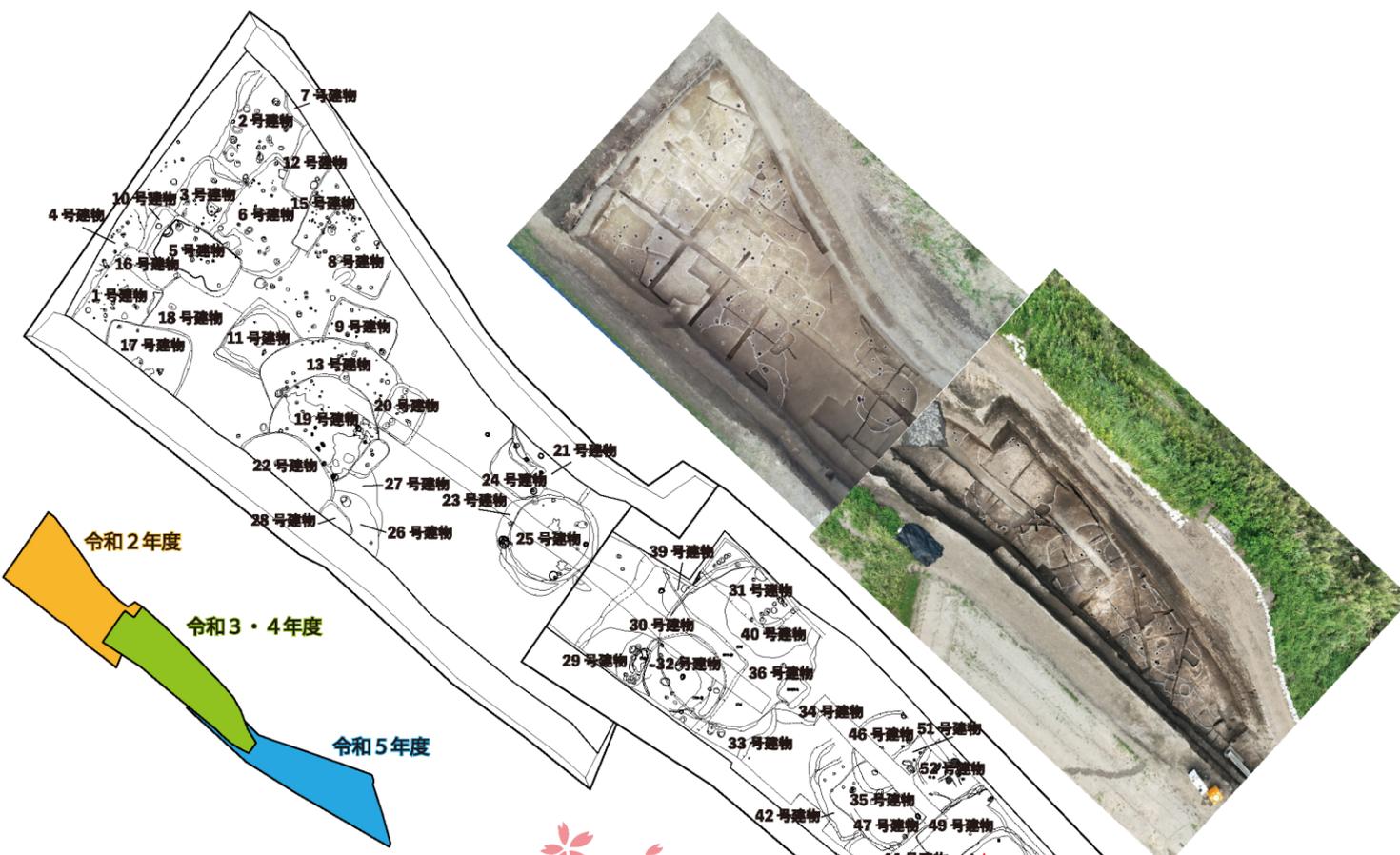
尾長谷迫遺跡が立地する標高40mの台地下には市道いわもとみやがはまひびせせん・岩本宮ヶ浜吹越線が走っており、台風や大雨の後には、必ずといっていいほど崖崩れが起きていました。人命や交通に大きな影響が出ることから、崖面崩落の前に改良する工事計画が平成28年に立案されました。工事によって削られる部分に尾長谷迫遺跡の範囲が含まれていたことから、遺跡の記録を未来へ残す事前の発掘調査が必要になりました。令和2年度から本格的な発掘調査が行われており、今回の調査で4回目になります。



尾長谷迫遺跡の位置



尾長谷迫遺跡の立地



姿を表した古墳時代の集落

発掘調査を進めると、今から約1,500年前の古墳時代の地層から、おびただしい数の土器や石器が出土しました。遺物だけでなく、古墳時代の竪穴建物跡が折り重なりあいながら見つかり、何世代にもわたってこの地で人々が居住していたことがわかってきました。

これまでの調査では約1,000㎡の範囲からおよそ100基の竪穴建物跡が見つかり、おそらく台地全体に集落があると考えられますから、その数は相当のものになると考えられます。



須恵器を真似て作られた壺



ワイングラスのような台付鉢

赤く塗られた小型壺

須恵器杯蓋

色鮮やかなガラス玉

超大型の壺

クワズイモの木葉痕がついた杯

猪形?の石製品

須恵器を真似て作られた高杯

杓子状土製品

多種多様な遺物群

尾長谷迫遺跡の集落からは、多くの土器や石器に加え、窯で焼かれた須恵器、須恵器を真似た高杯、木葉痕が残る杯、超大型の壺、杓子の形をした土製品、猪?のような形をした石製品、ガラス製の小玉などなど...。日常づかいのものから、祭祀に使用されたと考えられるものまで、多種多様な遺物が出土しています。出土品は数万点に上り、まだ洗っていないものだらけ。今後の整理作業で尾長谷迫遺跡の生活の様子を復元していきたいと思ひます。



歴史年表（尾長谷迫遺跡は★をつけた古墳時代）

鎌倉 桃安 明彦 倉山 土治